

平成 21 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 事業の開始年月日, 指定年月日, 法人名, 事業所名, 所在地, サービス種別, 定員等, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日.

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先, (empty cell)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同地区内に複数の施設が隣接している。地域の方々の理解や協力がある環境に恵まれている。地域の方の施設訪問の実現が上手くいかない現状ですが、夏祭りなどの施設行事には地域の方をお招きしたり、お手伝い頂いたりし、ご盛況を頂きました。

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 4 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日, 評価機関評価決定日.

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

(1) 地域との関係について
四つの町内会と交流があり、それぞれの町内会より催しに参加へのお誘いを頂いている。地区としては広地町町内会である。
(2) ご家族との関係について
できるだけご家族の要望を受入れるよう努めている。あるご家族から床がコンクリートであるから転倒防止の為に臨床センサーをつけて欲しいということで医師とも相談の上、対応している。
(3) 医療との関係について
かかりつけ医として、みずほクリニックの山川先生が月2回、訪問して頂いている。山川先生より他の病院への紹介も行われている。先生とは、日々相談し、精神的にもスタッフ相互のまとまりを相乗し高めている。
(4) ご利用者への対応について
ご利用者に対して、スタッフは「気持ちを汲む」だけでなく、ご利用者の心を重視し、気持ちを理解しながら雰囲気を感じとり対応している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

Table with 3 columns: 評価項目の領域, 自己評価項目, 外部評価項目.

事業所名	グループホーム銀らんの丘
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に読み合わせを行う他、全体ミーティング・カンファレンスを行う際に、支援の指針となるようにし、職員に理念の持つ意味を浸透させている。	朝の申し送り時に読み合わせを行う他、全体ミーティング・カンファレンスを行う際や、昼から夜の勤務者への申し送り時にも理念を復唱し、徹底している。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の商店を利用したり、公園に散歩に行くことで顔なじみができて、相手の方から挨拶をして頂くことも多い。夏祭りなどの地域にもお誘いいただき奮って参加させて頂いております。	近隣の商店を利用したり、公園に散歩に行く等で地域の方からご挨拶を頂たり、町内会によるお茶会、餅つき、盆踊り等に参加し、地域との繋がりを大切にしている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、認知症の方への対応について学びたいという要請があり、検討を行っていた。だが担当者の退職時引継ぎができておらず頓挫している為、担当者を選任し計画をつくりたい。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	担当職員の退職、ご入居者の退去が続き、今年度は2回しか開催できていない。来年度よりは3ヶ月に一回のペースで開催するよう努める。	グループホームや認知症の理解について、勉強させて欲しいと地域から望まれ、対応に努めている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を行う他、近隣地域包括センターへ困難事例の相談を行い、アドバイスを頂いた。グループホームブロック会に出席し、情報交換やアドバイスをいただくことのできる関係ができています。	運営推進会議の他、近隣地域包括センターやグループホームブロック会での情報交換やアドバイスを頂く関係が構築されている。磯子区のグループホーム連絡会では、感染症防止の為の研修が行われた。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員数名が地域の講習会に出席し、その後会議にて職員全員に伝達を行った。又勉強会を行い、法律や禁止行為、防止についてを学び意見を交換しました。	職員数名が地域の講習会に出席し、その後会議にて職員全員に伝達を行っている。玄関の施錠については、ご利用者の安全性を考え、ご家族とも相談して対応している。	今後の継続	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、法律や禁止行為、防止についてを学び意見を交換しました。又ご家族との外出時においては帰居時にはご利用者の変化に気をつけている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護事業の研修に参加し、職員に周知させるほか、必要な人には活用できるよう支援をしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学・契約・解約共に管理者から繰り返し十分な説明を行い、質問事項や問い合わせに対しては丁寧に対応している。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族の意見を伺うほか、契約時に苦情窓口のご案内をしている。 日ごろ職員は家族が話しやすい雰囲気作りに努めている。より話しやすい関係づくりに努めると共に、不満苦情があれば阿波速やかに対応したい。	運営推進会議でご家族の意見を伺うほか、契約時に苦情窓口のご案内をしている。ご家族からの要望による臨床センサー取付けに関し、医師とも相談の上、対応している。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングを月に一度実施し、業務改善に努め、必要なものに関しては見直し再検討を行っている。毎日の申し送りをでも職員の意見や対案を聞く機会を設けている。	毎日、朝、夕の申し送り、全体ミーティングを月一回、グループホーム・カンファレンスを会議で月一回実施し、スタッフ間の意見をまとめ聴く機会を設けている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に一度自己評価及び上司のとの面接を行い、職務に対する疑問や心配事、目標など確認をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を掲示し積極的に参加を呼びかけている。職員からの申告でも業務に必要であり上司の許可があれば就業として研修の受講を認めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホームブロック会における講習会へは管理者以外の職員へも参加を呼びかけ、交流を持つようにしている。 相互訪問などは実現していないが今後企画していきたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居の相談を受けた際には、ご本人と直接面談を行い、ホームでの生活に対すや疑問不安な事など伺いお話をする機会を作っている。ホームでの生活に対する希望も伺い、ご本人の気持ちをよりくみ取り、職員間で共有することで入所の後の生活に安心が得られるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の際には、ご家族の苦慮、不安、疑問などを伺い理解する努力をしている。問題点がある際には出来る面談を重ねできる限り解消できるよう向き合っている。ご家族のお話からもご利用者のニーズを汲み取れるものと考え、大切に受け止めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方にあったサービスを提供できるよう、問題点やニーズをよく聞き、担当ケアマネジャーとの連携を取り、職員間でも様々な目線からの検討を行い、広い視野での見極めをおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや慣わしなど教えていただく事はとても多く、職員も常勉強させていただいている。人生の大先輩として尊敬の念を忘れず、共に支えあう関係作りをケアの基本姿勢とし今後も努めていきたい。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等にご参加いただき、ご利用者の日頃の様子を見て頂いている。ご家族から要望がこない場合でも、ご来所時や手紙で近況を報告しケアに対するご意見を伺いご本人にとって、より良い支援ができるように努めている。今後も継続していききたい。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者のなじみの方が見えた際には、暖かくお迎えし、その日の行事やアクティビティにも参加して頂きグループホームにも親しんでいただけるよう働きかけている。またご本人以外のご利用者がお客様を職員以上におもてなしして下さり、お客様もより親しんで下さっている。	ご家族との面会は24時間可能となっており、夜間は外から入れない為、インターホンにて職員が対応している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性なども念頭に入れ、お互いが楽しく助け合いつつ過ごせるような働きかけをしている。またトラブルを未然に防げるように配慮し、今後もご利用者の個性と力で支えあう関係作りに努めていきたい。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方から、仲の良かったご利用者のところへ電話がかかってくることもあり、いつも懐かしげにお話しをされている。また職員とご家族間でも、退去後でもご相談に乗れるよう努めていきたい。			
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の言動やコミュニケーションのなかから、願いや思いに気付ける様、努めている。小さなサインも日頃のスタッフミーティングや、カンファレンスのなかで意見を出し合い、ご本人本意の生活ができるよう支援をおこなっている。	日常の言動やコミュニケーションから、ご利用者の心に寄り添うよう努めている。ご家族の気持とご利用者の気持のズレが生じた場合は、スタッフがきめ細やかに調整に努めている。		今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行い、ご家族や担当ケアマネジャーからより詳しくご本人の生活歴やバックグラウンドの情報収集を行う努力をしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の日々の変化や、気付きに重点を置いた申し送りを行いスタッフ間で状況を把握できるように努めている。 手工芸などご利用者の特技を生かしたアクティビティを個別に行えるような努力もしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のケースカンファレンスの中で問題点・気づきなど意見を交換し合い、プランを作成している。	月一回のケースカンファレンスの中で問題点・気づきなどの意見を交換し合い、プランを作成されている。介護計画は3ヶ月に1回見直し、ご家族からの要望があれば対応している。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ってご利用者にアプローチしている。その結果を個別記録に残し、申し送りの中でも見直しを行い改善点があれば改善していくようにしている。ケアの状況や変更は職員が共有できるよう都度の申し送りの徹底に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設されているデイサービスや地域の催しなどに参加している。 ご利用者、家族からの要望には、協力医療機関や法人内の他事業部等との連携で、柔軟にお答えできる支援を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方や、ご家族、学生にボランティアに来ていただいたり、参加したりして、作品作りやコンサートなどを楽しんでもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に通う方にはご家族に毎日の状態を報告し、必要があれば医師に相談して頂いている。訪問診療を受けている方に関しては毎日のケアを通し気になる点をご本人が伝えきれないことなど職員が医師に相談している。訪問診療機関が法人内にあり医師、看護師、介護職員との連携が密にとれている。	かかりつけ医に通う方にはご家族に毎日の状態を報告し、必要があれば医師に相談して頂いている。また、みずほクリニックの山川先生が月2回訪れ、歯科は毎週1回訪問があり、ご家族の要望も受けている。ホームは、訪問診療機関が法人内にあり医師、看護師、介護職員との連携が密にとれている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっている。週一の訪看の他、状態の変化があればその都度相談できるホットラインを設けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には経過等の介護サマリーを送り、退院時には看護サマリーを受け取り継続したケアができるよう努めている。協力医療機関にご利用者の状態を随時伝えることで、的確なアドバイスを頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制も2年目となり、看護師との連携も密にとれるようになってきた。過去の経験を糧に、しかるべき時、本人の意向を汲むことはもちろん、家族・医師・職員と話し合う機会を設け、強い連携のなかでご利用者を支援していくよう努める。	三者で話し合う機会を設け、強い連携を図りながらご利用者を支援していくよう努めている。平成20年に一度「看取り」の経験があり、日常的には山川先生に相談して対応している。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応を作成し所定の位置に設置してある。また、全体ミーティングなどで定期的に確認を行い職員全員が周知できている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回施設全体の避難訓練を実施している。備蓄庫の設置を行い有事に備えている。今後は地域の方々にも協力いただき備えていきたい。	避難訓練を年2回実施。消防署とも連絡を密にしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の「ケアハラスメント防止10項目」を掲げ、言葉がけや対応に活かしている。常日頃職員同士でお互いの言葉がけなどを気に掛け注意し合える関係ができている。また常に振り返りができるよ勉強会を設けている。	法人の「ケアハラスメント防止10項目」を掲げ、言葉がけや対応に活かしている。トイレへ行く際は強制的に進めるのではなく、個々の仕草などから判断して、プライバシーの確保に努めている。スタッフは、常に振り返りができるよ勉強会を設けている。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の言葉を常に傾聴し、様々な方面からその方が納得してくださるよう支援している。一人ひとりの力に合わせた声掛け、説明が出来る様に、傾聴する時間をより多く持つよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や体操など日課として声かけはしているが、強制はしていない。ご利用者のペースを優先できるような雰囲気作りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	残存能力を活かし、各自で出来る事はしていただき、困っている場合は援助している。地域の交流も兼ねて近所の理美容室へ定期的に通うなど、おしゃれを楽しめるような環境づくりに今後も努力したい。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	強制はしていないが、料理の得意な方には食事準備、そうでない方には食器拭きやテーブル拭きなどのお手伝いをしていただき生活しているという実感を持てるよう支援している。	夕食の調理の準備や手伝いを、ご利用者が楽しみながら行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時と食事、間食時に加え、入浴や外出後またご利用者から希望があった時など水分補給の機会を作っている。摂取量が少ない方に対してはご本人が好きなものを奨める等工夫し摂取記録をとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各自出来る方は毎食後に声掛けを行いしていただいている。介助の必要な方には出来るだけご本人でされた後、介助で行い口腔内を清潔に保てるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	必要な方に対しては、おむつの使用をしている方にも定時にトイレを誘導を行っている。	トイレに「行く」という行為を重視しており、声かけなどをしてトイレの誘導を行っている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に排泄の記録をとり、便秘対策は、食事、運動、服薬など個々にあった対策をみつけ対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴へのお誘いは定期的に行っているが、入居者様個々の希望を尊重し、一人ひとりに合った入浴の援助を行なっている。	入浴は2~3日に1度であるが、お風呂の好きなご利用者には毎日声かけをし、楽しんで頂いている。スタッフは一人ひとりに合った入浴の援助を行なっている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はよく眠れるように一日の生活リズムをつくり、適度に休息を入れ、ご利用者のペースに合わせつつも活動できるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の薬説明書ファイルや診療記録を、都度職員は目を通し理解に努めている。薬の変更や症状の変化について、記録し、申し送りを徹底している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の趣味・特技やバックグラウンドを予めご家族からお聞きしたり、本人がやりたい事の要望をアクティビティに取り入れている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があった際、近隣であれば職員が付き添い出かけている。遠方の場合ご家族に相談し対応していただいている。日頃からご利用者が行ってみたい場所をお聞きして外出行事に取り入れている。	希望があった際、近隣であれば職員が付き添い出かけている。日常的にはスーパーやコンビに買い物に行っている。クリスマス時期になると、飾られているイルミネーションを見に行く事もある。		今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から了承を得ているご利用者に関しては、お金を所持されている。その他の方は施設で管理しているが、ご利用者の希望があればいつでも日用品や嗜好品など買い物に行けるよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から了承を得ているご利用者に関しては、電話や手紙のやりとりができるよう支援している。ご家族、友人から電話があった際は、ご本人に代わりお話していただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調管理や遮光に関してはご利用者の意見を伺いながら行っている。 季節ごとのお花や飾るなど季節感を楽しめる空間作りに努めている。	行事である節分、お雛様などを活かし季節感を取り入れ楽しめる空間作りに工夫している。共有空間では、ご利用者相互にトラブルが発生しないよう対応に努めている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの中にしきりはないが、テーブル席やソファを配置し、ご利用者は思い思いの場所で過ごすことができるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者は入所の際にこれまで愛用されていた家具を持ち込まれている。要望のあったものや必要な物品は都度家族へ相談しそろえている。	ご利用者は入所の際にこれまで愛用されていた家具を持ち込まれている。ホームではベッドとクローゼットを用意し、部屋の雰囲気作りはご利用者とご家族にお任せしている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	電気のスイッチや蛇口の操作など分かりづらい箇所には印をつけご利用者が困らないように配慮している。 簡素すぎない内装の中でも職員はフロア全体を見渡せ安全を確認できる。		

事業所名	グループホーム銀らんの丘
ユニット名	3F

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に読み合わせを行う他、全体ミーティング・カンファレンスを行う際に、支援の指針となるようにし、職員に理念の持つ意味を浸透させている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の商店を利用したり、公園に散歩に行くことで顔なじみができて、相手の方から挨拶をして頂くことも多い。夏祭りなどの地域にもお誘いいただき奮って参加させて頂いております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、認知症の方への対応について学びたいという要請があり、検討を行っていた。だが担当者の退職時引継ぎができておらず頓挫している為、担当者を選任し計画をつくりたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	担当職員の退職、ご入居者の退去が続き、今年度は2回しか開催できていない。来年度よりは3ヶ月に一回のペースで開催するよう努める。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を行う他、近隣地域包括センターへ困難事例の相談を行い、アドバイスを頂いた。グループホームブロック会に出席し、情報交換やアドバイスをいただくことのできる関係ができている。。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員数名が地域の講習会に出席し、その後会議にて職員全員に伝達を行った。又勉強会を行い、法律や禁止行為、防止についてを学び意見を交換しました。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、法律や禁止行為、防止についてを学び意見を交換しました。又ご家族との外出時においては帰居時にはご利用者の変化に気をつけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護事業の研修に参加し、職員に周知させるほか、必要な人には活用できるよう支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学・契約・解約共に管理者から繰り返し十分な説明を行い、質問事項や問い合わせに対しては丁寧に対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族の意見を伺うほか、契約時に苦情窓口のご案内をしている。 日ごろ職員は家族が話しやすい雰囲気作りに努めている。より話しやすい関係づくりに努めると共に、不満苦情があれば阿波速やかに対応したい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングを月に一度実施し、業務改善に努め、必要なものに関しては見直し再検討を行っている。毎日の申し送りをでも職員の意見や対案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に一度自己評価及び上司のとの面接を行い、職務に対しての疑問や心配事、目標など確認をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を掲示し積極的に参加を呼びかけている。職員からの申告でも業務に必要であり上司の許可があれば就業として研修の受講を認めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホームブロック会における講習会へは管理者以外の職員へも参加を呼びかけ、交流を持つようにしている。 相互訪問などは実現していないが今後企画していきたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居の相談を受けた際には、ご本人と直接面談を行い、ホームでの生活に対すや疑問不安な事など伺いお話をする機会を作っている。ホームでの生活に対する希望も伺い、ご本人の気持ちをよりくみ取り、職員間で共有することで入所後の生活に安心が得られるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の際には、ご家族の苦慮、不安、疑問などを伺い理解する努力をしている。問題点がある際には出来る面談を重ねできる限り解消できるよう向き合っている。ご家族のお話からご利用者のニーズを汲み取れるものと考え、大切に受け止めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方にあったサービスを提供できるよう、問題点やニーズをよく聞き、担当ケアマネジャーとの連携を取り、職員間でも様々な目線からの検討を行い、広い視野での見極めをおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや慣わしなど教えていただく事はとても多く、職員も常勉強させていただいている。人生の大先輩として尊敬の念を忘れず、共に支えあう関係作りをケアの基本姿勢とし今後も努めていきたい。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等にご参加いただき、ご利用者の日頃の様子を見て頂いている。ご家族から要望がこない場合でも、ご来所時や手紙で近況を報告しケアに対するご意見を伺いご本人にとって、より良い支援ができるように努めている。今後も継続していききたい。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者のなじみの方が見えた際には、暖かくお迎えし、その日の行事やアクティビティにも参加して頂きグループホームにも親しんでいただけるよう働きかけている。またご本人以外のご利用者がお客様を職員以上におもてなしして下さり、お客様もより親しんで下さっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性なども念頭に入れ、お互いが楽しく助け合いつつ過ごせるような働きかけをしている。またトラブルを未然に防げるように配慮し、今後もご利用者の個性と力で支えあう関係作りに努めていきたい。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方から、仲の良かったご利用者のところへ電話がかかってくることもあり、いつも懐かしげにお話しをされている。また職員とご家族間でも、退去後でもご相談に乗れるよう努めていきたい。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の言動やコミュニケーションのなかから、願いや思いに気付ける様、努めている。小さなサインも日頃のスタッフミーティングや、カンファレンスのなかで意見を出し合い、ご本人本意の生活ができるよう支援をおこなっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行い、ご家族や担当ケアマネジャーからより詳しくご本人の生活歴やバックグラウンドの情報収集を行う努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の日々の変化や、気づきに重点を置いた申し送りを行いスタッフ間で状況を把握できるように努めている。 手工芸などご利用者の特技を生かしたアクティビティを個別に行えるような努力もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のケースカンファレンスの中で問題点・気づきなど意見を交換し合い、プランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ってご利用者にアプローチしている。その結果を個別記録に残し、申し送りの中でも見直しを行い改善点があれば改善していくようにしている。ケアの状況や変更は職員が共有できるよう都度の申し送りの徹底に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設されているデイサービスや地域の催しなどに参加している。 ご利用者、家族からの要望には、協力医療機関や法人内の他事業部等との連携で、柔軟にお答えできる支援を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方や、ご家族、学生にボランティアに来ていただいたり、参加したりして、作品作りやコンサートなどを楽しんでもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に通う方にはご家族に毎日の状態を報告し、必要があれば医師に相談して頂いている。訪問診療を受けている方に関しては毎日のケアを通し気になる点をご本人が伝えきれないことなど職員が医師に相談している。訪問診療機関が法人内にあり医師、看護師、介護職員との連携が密にとれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっている。週一の訪看の他、状態の変化があればその都度相談できるホットラインを設けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には経過等の介護サマリーを送り、退院時には看護サマリーを受け取り継続したケアができるよう努めている。協力医療機関にご利用者の状態を随時伝えることで、的確なアドバイスを頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制も2年目となり、看護師との連携も密にとれるようになってきた。過去の経験を糧に、しかるべき時、本人の意向を汲むことはもちろん、家族・医師・職員と話し合う機会を設け、強い連携のなかでご利用者を支援していくよう努める。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応を作成し所定の位置に設置してある。また、全体ミーティングなどで定期的に確認を行い職員全員が周知できている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回施設全体の避難訓練を実施している。備蓄庫の設置を行い有事に備えている。今後は地域の方々にも協力いただき備えていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の「ケアハラスメント防止10項目」を掲げ、言葉がけや対応に活かしている。常日頃職員同士でお互いの言葉がけなどを気に掛け注意し合える関係ができています。また常に振り返りができるよう勉強会を設けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の言葉を常に傾聴し、様々な方面からその方が納得してくださるよう支援している。一人ひとりの力に合わせた声掛け、説明が出来る様に、傾聴する時間をより多く持つよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や体操など日課として声かけはしているが、強制はしていない。ご利用者のペースを優先できるような雰囲気作りに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	残存能力を活かし、各自で出来る事はしていただき、困っている場合は援助している。地域の交流も兼ねて近所の理美容室へ定期的に通うなど、おしゃれを楽しめるような環境づくりに今後も努力したい。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	強制はしていないが、料理の得意な方には食事準備、そうでない方には食器拭きやテーブル拭きなどのお手伝いをしていただき生活しているという実感を持てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時と食事、間食時に加え、入浴や外出後またご利用者から希望があった時など水分補給の機会を作っている。摂取量が少ない方に対してはご本人が好きなものを奨める等工夫し摂取記録をとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各自出来る方は毎食後に声掛けを行いしていただいている。介助の必要な方には出来るだけご本人でされた後、介助で行い口腔内を清潔に保てるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	必要な方に対しては、おむつの使用をしている方にも定時にトイレを誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に排泄の記録をとり、便秘対策は、食事、運動、服薬など個々にあった対策をみつけ対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴へのお誘いは定期的に行っているが、入居者様個々の希望を尊重し、一人ひとりに合った入浴の援助を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はよく眠れるように一日の生活リズムをつくり、適度に休息を入れ、ご利用者のペースに合わせてつも活動できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の薬説明書ファイルや診療記録を、都度職員は目を通し理解に努めている。薬の変更や症状の変化について、記録し、申し送りを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の趣味・特技やバックグラウンドを予めご家族からお聞きしたり、本人がやりたい事の要望をアクティビティに取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があった際、近隣であれば職員が付き添い出かけている。遠方の場合にご家族に相談し対応していただいている。日頃からご利用者が行ってみたい場所をお聞きして外出行事に取り入れている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から了承を得ているご利用者に関しては、お金を所持されている。その他の方は施設で管理しているが、ご利用者の希望があればいつでも日用品や嗜好品など買い物に行けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から了承を得ているご利用者に関しては、電話や手紙のやりとりができるよう支援している。ご家族、友人から電話があった際は、ご本人に代わりお話していただいている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調管理や遮光に関してはご利用者の意見を伺いながら行っている。季節ごとのお花や飾るなど季節感を楽しめる空間作りに努めている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの中にしきりはないが、テーブル席やソファを配置し、ご利用者は思い思いの場所で過ごすことができるようになっている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者は入所の際にこれまで愛用されていた家具を持ち込まれている。要望のあったものや必要な物品は都度家族へ相談しそろえている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	電気のスイッチや蛇口の操作など分かりづらい箇所には印をつけご利用者が困らないように配慮している。簡素すぎない内装の中でも職員はフロア全体を見渡せ安全を確認できる。			

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム銀らんの丘

作成日

平成22年1月25日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議の中で、認知症の方への対応について学びたいという要請があったが、実現していない。	認知症の方への対応について等講習会の実施	担当を選任し講習の内容の具体的な案をまとめていく	平成22年度内
3	4	運営推進会議の開催が年間2回になってしまった	運営推進会議の定期実施	3ヶ月に一度コンスタントに会議を実施。特に地域に還元できるような議題には積極的に取り組んでいきたい。	全期
5	6	身体拘束をしないケアの実践→フロア移動用エレベーターのロック	フロアエレベーターのテンキーロックを常に解除したい	1階のデイサービス職員の協力も要請し、見守りの徹底を浸透させてキーロック解除後もご利用者の安全が確保できる体制を整える。	2010/4/23
4	48	役割、楽しみごとの支援に関して、より大きくアプローチしていきたい。	ご利用者が銀らんの丘でのご自分の役割を見つけて、活躍でき満足感を得られるような支援をしたい	ご利用者の思いを大切にしつつ、皆様がそれぞれにできることを助け合いながら生活していただけるようコミュニケーションを図る。	全期
2	35	災害対策、出火を想定した避難訓練は行っているが、現実性が希薄である。	有事に具体的にどのように行動するかを専門の方からも学びたい。また職員の行動指針を作りたい。	ご利用者の安全はもちろん、職員の身の安全も守れるような訓練を行っていききたい。地域の方との連携を密にとり災害時に助け合えるような関係を築く。	平成22年度内

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。